

『春待ち』

作詞：ASORA 作曲：土井祥弘

小鳥の囀りに 私は目を覚ます  
見慣れない天井 目覚ましの鳴らない部屋で  
まどろみの中 ハッと 旅先だったと気付く  
そう私は一人 すべてから逃げてきたんだ

いつから 心は凍りついたのか？  
口をつぐんで 立ちすくむ かかしまいたいに  
涙は 枯れ果ててしまったのかしら  
あなた去ったあの夜さえ 一瞬も 泣けなかった

ふらり一人で歩いた 春待ちの田舎道は  
頬刺す風 冬の香りね  
何気なく立ち止まると 道端にスミレの花  
胸の奥の 古い記憶が 波打つの…

冷えた両手抱え 部屋に戻るけれど  
あの花が私を 思い出に引きずり込むの  
あたり前のように 二人で過ごした時を  
ページをめくるように 目を閉じて 思い返すの

いつから 心は離れていったのか？  
愚痴や 夢や 悩みも全部言い合えたのに  
涙は 枯れることなく溢れ出て  
そんな時は いつまでだって そばにいてくれたね

あの日二人で歩いた 夕暮れの帰り道で  
寂しくって うつむく私に  
そっと手渡してくれた 一輪のスミレの花  
微笑んでる あなたの影が 重なるの…

ラララ…  
こんな時は ひどくあなたに 会いたいよ  
溶ける心 涙が頬を つたっていく…